



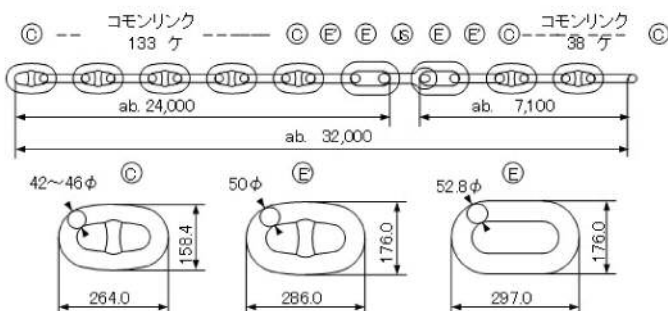
平成3年(1991年)4月、26年も前のことです。函館空港よりレンタカーで約1時間30分、江差追分で知られる北海道松山郡江差町の開陽丸青少年センターにお邪魔しました。町より鷗島(かめじま)を見渡す海岸に再現された帆船、開陽丸のマストが見えます。「開陽丸の引き揚げは町民の永年の願いでした」



■56

『開陽丸の鎖2』

と語るセンターの石橋常務理事と江差町教育委員会の藤島様の御協力により引き揚げられた開陽丸

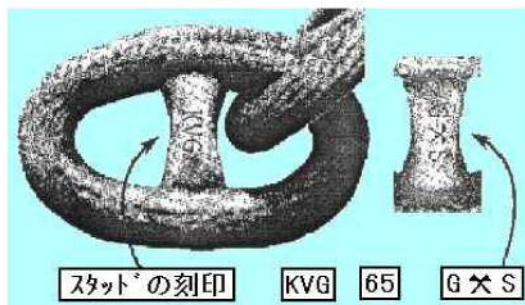


開陽丸の鎖(図①)

現在の規格寸法 1 3/4"			単位 mm		
コモンリング C			エンラージドリング E'		
直径	外長	外幅	直径	外長	外幅
44.5	288.7	180.2	48.9	288.9	177.8
			エンドリング E		
			直径	外長	外幅
			53.3	300.0	177.8

新聞に掲載された大きな鎖を、是非見たいものだと思います。差町の教育委員会へ電話をしました。『鎖の専門

のチェーンを見ることのできる、と快く承諾頂きました。幸いなことに漁業関係の仕事が札幌であり、足を伸ばして函館空港から江差へ向かいました。



開陽丸の鎖(スタッドを含む)

有する考古学資料館は開陽丸センターより北へ1キロ程離れた海岸の埋め立て地にありました。それはカマボコ型の建物で数棟ブルーのトタン屋根を持ち並んでいました。

江差町教育委員会の所長が約32トン推定重量は1300キロあります。見せて頂いた開陽丸のチェーンに残された刻印『KV』と『65』と造

り、と早く承諾頂きました。幸いなことに漁業関係の仕事が札幌であり、足を伸ばして函館空港から江差へ向かいました。

各部分を計測して上記の寸法を得ましたが、チェーンの直径が1.3/4(44.5mm)、現在使われているアンカーチェーンとはほとんど同じ寸法です。連結部を含む、全長

丸の遺物が棚にきちんと整理されていました。新聞の写真に写っていた鎖は大きいので棚には乗せられず、又展示するのも困難なのです。藤島様がそう言われました。(図①参照)

船所名(ヒップス・エン・ゾーネン造船所)を手がかりに、製造したメーカーと製造方法の調査を神戸市にあるロイド船級協会にお願いしました。その結果、1. 当時ライデン市にロイド船級協会のチェーン製造の承認工場があった。社名は『Koninklijke Nederlandse scheepsbouw Maatschappij N.V.』社(王立オランダ粗鍛造会社)によって製造されたもので、製造方法は手造り螺旋状鍛造と記載されていました。この業者の略号はスタッド部にあった『KV』です。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

調査にご協力頂きましたロイド船級協会の上谷明人様にお礼申しあげるとともに、メーカー名を翻訳頂いた三井光晴先生に感謝します。

画像はカラーと交換しています。